

2026 年 1 月 27 日

各位

会 社 名 Chordia Therapeutics 株式会社
代 表 者 名 代表取締役 三宅 洋
 (コード番号：190A 東証グロース市場)
問 合 せ 先 IR マネジャー 吉良 亜実
 TEL : 03-6661-9543
 MAIL : ir@chorditherapeutics.com

CLK 阻害剤 rogocekib の血液がんに対する First-in-Human 日本国内第 1 相臨床試験の論文掲載のお知らせ（続報）

Chordia Therapeutics 株式会社（本社：神奈川県藤沢市、代表取締役：三宅洋）は、当社が開発を進めております CLK 阻害薬 rogocekib (CTX-712) を人に初めて投与した日本国内第 1 相臨床試験の血液がんパートの最終結果をまとめた学術論文に関して、先般発表いたしました 2025 年 10 月 14 日の Blood Advances 誌での先行公開に続き、2026 年 1 月 13 日に図表等が整備された最終版が公開されたことを報告いたします。同時に、当該学術論文の結果を評価した第三者専門家のコメント記事が同誌に掲載されましたのでお知らせいたします。

論文情報

Phase I Study of Rogocekib in Patients with Relapsed or Refractory Hematologic Malignancies

Yokoyama H, Fukuhara N, Ando K, et al. Phase I study of rogocekib in patients with relapsed or refractory hematologic malignancies. Blood Adv. 2026;10(1):262-272.

URL: <https://ashpublications.org/bloodadvances/article/10/1/262/547633/Phase-1-study-of-rogocekib-in-patients-with>

第三者専門家のコメントについて

米国ボストンの Dana-Farber Cancer Institute 白血病部門所属の Evan C. Chen 医師らによる専門家コメント記事が掲載されました。当該コメント記事では、再発または難治性の急性骨髄性白血病（AML）および高リスク骨髄異形成症候群（MDS）患者において、rogocekib が示した抗腫瘍効果および良好な安全性について、前向きに評価されております。また、米国で進行中の第 1/2 相

試験（NCT05732103）ならびに今後の開発動向にも引き続き注目が寄せられております。

コメント記事の主なハイライト

- 全体として良好な安全性プロファイルであり奏効率は 42.9%であることから、rogocekib は新規作用機序薬として有望と考えられる
- 標的遺伝子においてスプライシングの変化が確認され、薬理作用と臨床効果の整合性が示唆されている
- スプライシング因子変異（SRSF2、U2AF1）を有する患者群でより高い奏効率 75%が示され、患者層別化の可能性を示唆された
- 今後の展望として、米国での新製剤（当社注：米国試験ではカプセル剤から錠剤に変更）による臨床試験ならびに BCL-2 阻害薬 venetoclax との併用による相乗効果探索など、開発の前進が期待される

なお、Chen 博士は、rogocekib の競合品である BioSplice 社の cirtuvivint の第 1 相試験（NCT06484062）の治験責任医師であることが公表されております。

掲載論文に対して独立した専門家によるコメント記事が付されることは、学術誌編集部が論文内容が高く評価され、特に読者に注目してほしい重要な成果と判断された証であると当社は受け止めております。

当社の rogocekib が、新規作用機序を持つ治験薬として科学的関心と期待を集めていることを嬉しく思うとともに、開発を迅速に進めてより多くの AML や MDS の患者に新しい治療選択肢を提供できるように尽力いたします。

コメント記事情報

More than CLK bait? Rogocekib for MDS and AML

Chen EC, Stahl M. More than CLK bait? Rogocekib for MDS and AML. Blood Advances. 2026 Jan 13;10(1):260-1.

URL: <https://ashpublications.org/bloodadvances/article/10/1/260/565923/More-than-CLK-bait-Rogocekib-for-MDS-and-AML>

Chordia Therapeutics 株式会社について

当社は、臨床開発品を擁するがん領域専門の研究開発型バイオベンチャーとして、神奈川県藤沢市を本社として活動しています。私たちのリードパイプラインである CLK 阻害薬 rogocekib（CTX-712）は、米国での第 1/2 相試験を進行中です。rogocekib は、がんの脆弱性をターゲットにしており、有望な治療薬としての可能性が期待されています。また、当社は、リードパイプライン

ンの rogocekib、MALT1 阻害薬 CTX-177 に加え、CDK12 阻害薬 CTX-439、GCN2 阻害薬など、複数のパイプラインの研究開発に取り組んでいます。

詳細は、当社ウェブサイト (<https://www.chorditherapeutics.com/>) をご覧ください。